

令和元年度文化財講座の報告！

令和になって初めて、高鷲文化財保護協会は、文化財講座として8月の土曜日に1時間余りの講座を高鷲町民対象に開催し、広く町民に本会の活動と高鷲町の歴史・文化財を学習する活動を行った。講師には高鷲在住の四人の会員の方々をお願いした。以下、開催日と講演の内容と講師のお名前を報告します。



講座中風景

第1回：8月3日（土）鷲見尚武氏 「鷲見氏関係、鷲見城社について」

- ・鷲見氏が高鷲に居住した時期といわれに対する学説・・・①鷲退治説、②荘官説、③豪族の遠流説、④赤子説、⑤鷹司郷説
- ・鷲見城の築城時期説・・・①1160年説、②1185年説、③1221年説、④1221年以降説、⑤1253年説
- ・向鷲見城から鷲見城へと変わった時期は昭和54年から。
- ・鷲見氏略系図：
藤原鎌足→藤原不比等→藤原房前→藤原魚名→藤原家保→①藤原頼保→②重保→③家保→④保吉→⑤長保→⑥忠保→⑦加賀丸→⑧氏保→⑨行保→⑩朝保→⑪保兼→⑫永保→⑬保光→⑭保義
- ・以上歴代城主の活躍についての説明

第2回：8月10日（土）馬淵旻修氏 「郡上開拓団と高鷲村開拓団」

- 1 満洲国とは、昭和7年建国、昭和11年軍部独裁、広田弘毅内閣七大国策
- 2 大陸移民の背景
- 3 開拓団の種類：武装移民、自由移民、宗教別移民、産業別移民、開拓青少年義勇軍
- 4 開拓送出人数県別ランク：①長野②山形③宮城④熊本⑤岐阜
// 県内：①郡上②加茂③恵那④益田⑤大野
- 5 満州農業移民不可能論と可能論
- 6 入植地と農作業風景
- 7 郡上開拓団：①凌霜塾②先遣隊入植③開拓団の生活④開拓団の発展
- 8 琿春高鷲開拓団：①高鷲村の状況②先遣隊の入植③本隊の入植
- 9 避難と逃避行
- 10 辻村徳松の天皇奏上書
- 11 婦人達の村づくり
- 12 ひるがの高原の発展
- 13 まとめ

第3回：8月24日（土）水上精栄氏 「白山エコパークと白山信仰」

1 白山エコパークの概念説明

現在、日本のユネスコエコパークは5箇所ある。1980年に登録されたのは白山、志賀高原、屋久島、大台ヶ原・大峰山の5箇所で、2012年に登録されたのが、宮崎県の綾町を中心とするユネスコエコパークである。現在、複数の地域で登録を目指しており、南アルプス、只見、志賀高原については、登録申請が行われた。

白山ユネスコエコパークは日本の中部に位置し、3000 m級の白山を中心に持っている。白山は独立峰で川は太平洋と日本海へ流れている。郡上市は唯一太平洋側の主に長良川エリアである。高鷲町と白鳥町の一部は白山エコパーク緩衝地帯の一部となっている。

2 白山信仰

白山は、富士山、立山と共に日本三霊山の一つで、長良川・九頭竜川・手取川・庄川の源流を持ち、太平洋と日本海へ流れる広大な流域を持ち、豊かな自然を背景に千年以上に渡って神仏習合という日本特有の白山信仰文化を育ててきた。白山神社の分布は、石川県、福井県、岐阜県、愛知県に多く、その理由として①泰澄大師によって広められた②霊峰白山が見えるところ③修験者の交流により広められた等々之理由が在る。



講演をする水上氏

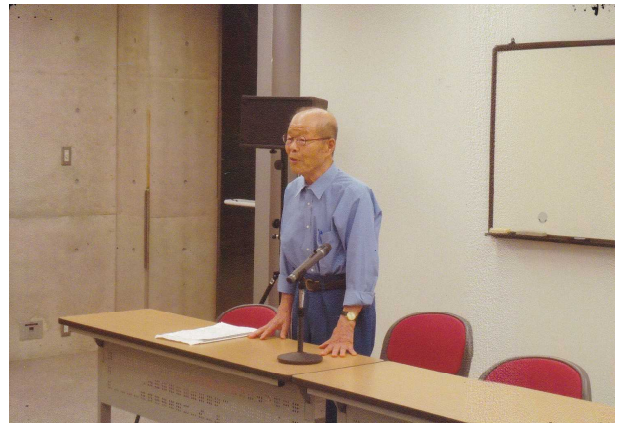
第4回：8月31日（土）山川清至氏 「山川弘至記念館について」

1 山川弘至と太平洋戦争：山川弘至は大正5年郡上郡高鷲村切立明谷で山川新輔氏の長男として生まれ、高鷲小学校、県立岐阜第二中学校、國學院大學、同大学院を卒業後、昭和18年京子さんと結婚、昭和20年8月11日台湾の併東飛行場で戦死。その間、国文学者の折口信夫、民俗学者の柳田国男、言語学者の金田一京介などの教えを受け、版画家棟方志功らと親交を結んだ。

2 山川弘至の戦死数年後：弘至の死を悼んで友人・知人・有志一同が記念館創立を發起、平成16年に第一記念館が、平成18年に第二記念館と第三記念館が完成した。入場料は無料。

3 記念館入館者とその後の推移：当初は東京を中心に山川弘至と縁のあった方々が多く来館されたが、平成20年頃までは岐阜県を中心に、近年は遠方の方々も来館される。開館以来15年経過して約1100人余の来館者があった。

4 記念館の今後の運営：管理に万全を期すため、後継者の養成に努めたいと思う。



講演をする山川清至氏

本会主催、大鷲白山神社秘仏公開

高鷲文化財保護協会では、10月20日の日曜日の「たかすふるさと祭」に協賛して、大鷲白山神社の鍵元にお願ひし、同日大鷲白山神社の拝殿にて秘仏「懸仏」の一般公開と解説を行います。時間は10:00～12:00までの間です。多数の方々の来場をお待ちしています。